

「フクジマ兄ちゃんの計測奮闘記」

株式会社シューマート 高崎飯塚店 福島 貴志

「子供の足は未完成。選んであげる靴で、しっかりした丈夫な足にもなるし、足型が歪んでしまう事だつてある」。私が子供靴部門の担当になってすぐに、先輩から言われた言葉である。これまで都内で靴の販売員をしていたが、土地柄かお客様のニーズは「お洒落であること」が第一。足型に合う靴ではなく、お客様のワードローブに合う靴の販売がメインであった。

現在の会社に入社し、足の計測方法を学んだ私は、以前の会社に所属していた時よりも、接客に入った際に力んでいるのがよくわかった。足の計測が初めてということもあつたが、何より先輩の言葉を重くとらえ過ぎていたのである。私の間違つた靴選びで、お客様の足が正しく成長しなかつたらどうしよう。そればかりが頭の中をぐるぐる回り、緊張していた。感受性の豊かな子供たちには、私がガチガチになっているのが見抜かれてしまっていて、計測の際に泣き出してしまふ子や逃げるように動き回ってしまう子が多く、上手く計測できない私はさらに焦っていた。悪循環である。

悩んでいたある日のことだった。お客様から子供の足を測つて欲しいと声をかけられ、いつものように計測に入ろうとした時だった。「お兄ちゃん、名前は？」小学校入学前の、物怖じしないハキハキした男の子だった。名札を見せ、「フクシマつて名前だよ」と答えると、「フクジマ。変な名前だね」と大笑い。お母さんが注意していたが、あまりの可愛さに私も思わず吹き出してしまった。よほどフクジマという名前が気に入ったのか、計測後も私のズボンを掴んで離れようとせず、お帰りの際には「ありがとう。フクジマ兄ちゃんバイバイね」と、小さな手を一生懸命に振ってくれていた。

小さな背中を見送りながら、私は気付かされた。正しい靴選びを。正確な計測を。それにばかりとらわれて、お子様の足型だけしか見ていなかったのだと。もちろんそれらも大切だが、それ以前にお買い物を楽しんでもらおう。成長を見守るためにも、もう一度ご来店いただけるような接客を目指そう。成長を左右す

る、責任ある仕事だが、それは同時にやりがいでもあるのだ。会話を楽しんだあの男の子のように、私自身も楽しまなくては。

私があの子を初めて計測した日から、もう一ヶ月が経った。二ヶ月ごと、こまめにご来店していただき、男の子も足も元気に成長中だ。足のサイズは約1cm大きくなり、私の呼び名は「フクジマ兄ちゃん」から「フクジマちゃん」へと変わった。もう少しで、私は「福島さん」になれるかも知れない。そう思うと笑顔になれる。

今では、計測前の子供たちの表情や会話が楽しみでならない。計測もすんなりとなせるようになり、子供たちも私もずっと笑顔のままだ。「優しいお兄ちゃん」で良かった。「この前の靴でね、かけっこ一番になったよ」。そんな子供たちの言葉が嬉しい。さあ、今日も楽しんで、フクジマ兄ちゃんは足のサイズを測ります。